

## 利用者の声



石田敬子さん  
- 奈良町 -

夫は初代の運転手  
皆親切で居心地の良い場所

移動図書館が始まった初代の運転手は主人でした。今は私が仕事を退職して時間ができたので、10年前から利用しています。時代劇がお気に入り、毎回連載ものを持ってきてもらい、全巻読破に挑戦しています。

図書館員さんはとても親切。利用者同士の触れ合いも楽しいので、居心地の良い場所です。毎月が待ち遠しいです。



川田小学校5年生  
(左から 篠原涼司君、大竹惟月君、茂木悠晴君)

毎月楽しみ  
来てくれるのが便利

児童書レーベルの角川つばさ文庫がお気に入りの茂木君は「図書館に行かなくても、移動図書館が学校まで来てくれるから便利」と話します。たいてい2、3冊借りるといふ篠原君は「ミステリーものがお気に入り。待ち遠しい」と笑顔。読書にはまっている大竹君は「漫画や戦闘ものを読むので、持ってきてもらえて嬉しい」と移動図書館の魅力を話しました。



2



1



4



3



6



5

1 新旧の移動図書館車。左が新車両 2 3 新車両の内外装。後ろからは車イスが入れる 4 5 旧車両の廃車時に利用者書いたメッセージは、図書館3階に掲示 6 各ステーションへ運ばれる予約本

### 地域に寄り添う図書館員

移動図書館の利用者は多いところでも30人と、図書館本館に比べて圧倒的に少ないですが、このことがメリットでもあります。「利用者との距離が近いので、何気ない会話を通して、この地域に合った本は何だろうと考えるのが準備することができ、屋外なので少し大きな声で会話が弾むこともあり、それも魅力の

マスコットマークはそのまま生かし、デザインを担当した塚田堂鬼さんは「本を通して夢と希望を届けてほしい」と話します。

廃車前の「あかつき号」には、巡回場所を訪れる人が「本を運び続けてくれてありがとう」と名残惜しそうにメッセージを残し、これまでの思い出を振り返りました。メッセージは図書館3階に掲示しています。

移動図書館の利用者は多いところでも30人と、図書館本館に比べて圧倒的に少ないですが、このことがメリットでもあります。「利用者との距離が近いので、何気ない会話を通して、この地域に合った本は何だろうと考えるのが準備することができ、屋外なので少し大きな声で会話が弾むこともあり、それも魅力の

「一つです」と図書館員の阿部尚代さん。借りた本は次回の巡回日に返却するため、だんだん利用者が好む本の傾向が分かってくることや、こういった本を読みたいと話してくれることで、読書案内に生かすことができます。「中国の古典が好きで男性がいたので、好みそうな本を持って行くと喜ばれました。全50巻読破の挑戦中に亡くなってしまいました。が、いつも楽しそうに訪れる姿はずっと心の中に生きています」と振り返ります。

移動図書館車には新刊本は多く積まれていませんが、選書する図書館員とより身近に触れ合うことで、一人一人に合った一冊に出合えることが大きな魅力です。人と本をつなぐ出合いの場を目指して、「あかつき号」は今月もどこの地域に活動しています。